2015年度プロジェクト科目 秋学期成果報告会の様子

PBL

Project-Based Learning

推進支援センター通信

VOL. 13

同志社大学PBL推進支援センターは、多様なPBL（Project-Based Learning）についての方法論的な検証を行い、その成果を教育機関や社会に広く発信し、課題探求能力を備えた21世紀型市民を育成することを目的としています。

同志社大学全学共通教養教育において本格的・組織的なPBLが導入されてから10余年がたちますが、アクティブ・ラーニングの深化型ともいえるPBLの学びや豊かな広がりは果たして共有されているのか、原点に戻り問い直す必要を感じています。そこで今回は、「（質のよい）失敗から学ぶPBL」というテーマに基づき、学びの原点について考え、学びの本質や学習効果についてさぐっていきます。

非効率的な学びとしてのPBL ～失敗から学ぶとは?～

同志社大学PBL推進支援センター長
文学部教授　山田和人

「失敗から学ぶ」という視点は、PBLという学びの非効率性を典型的に示すことでもある。情報化社会においてさまざまな局面で、能率化・効率化が求められ、教育の世界にもそうした成果主義・効率優先の考え方が持ち込まれてきているのではないか。短期間に成果をあげる、人より優れた成果を示す、他者とは違った効果を強調する、そんな風潮が蔓延しているのではないか。

アクティブ・ラーニングやPBL型の学びは、そうした風潮に応じて効率化できるのか。おそらく答えはNo!だろう。学びとは本来試行錯誤の繰り返しであり、次々と変化する局面に応じて課題を的確に設定して、その解決のために力強く、継続的に取り組んでいく人間の営みの意味であろう。とすれば、それは効率主義とは逆の「非効率的な学び」といえる。それが効率化していくとき、アクティブ・ラーニングやPBL型の学びは、その本質を失い、形骸化していくしかなくなる。

実は、PBLは「失敗」の繰り返しであり、それを自力で克服したり、修正したりしていくなかでチームとして、個人として成長していく持久力に富んだ骨太の学びと言える。PBL型のプログラムに参加した学生たちに共通項があるとすれば、その骨太の思考力といえるのではないか。何度も失敗を繰り返し、それが彼らを強くした。根性や感覚ではなく、難局に遭遇する中で課題を見きわめ取り組んでいく持続的な思考力のなせる技と言える。

ただし、「失敗」にも質がある。失敗には、「失態」「過失」「錯誤」「誤謬」など同義語がいろいろある。だが、これらはいわば不注意な間違いの意である。こうしたレベルの錯誤から学ぶべきものはほとんどない。効率よく点検を行えば済む。質のよい失敗とは全力を尽くしてもなお生じた失敗であり、そのなかに適切に課題を設定できていたのかどうかという本質的な問いかけを内包している失敗である。そうした失敗をベースにした評価・省察が粘り強い思考力へと学習者を導く。

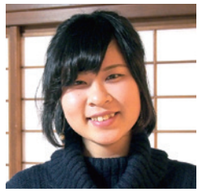
われわれはそうしたしなやかな思考力をアクティブ・シンキングと命名している。アクティブ・ラーニングで身につけるべき最も大きな力をそう規定する。ひとつのプロジェクトを成就させるためには、着想・発想→問題発見→課題設定→課題解決→省察・ 評価のサイクルを学習者自身が回していくことが求められる。めまぐるしく変化する状況に適応して、適切かつ迅速に課題を設定し直して、その解決策を考案していく強靱な思考力が必要である。

PBLとは非効率的な学びではあるが、人生を生き抜く強靱な思考力を身につける骨太の学びであることは間違いない。

【特集】（質のよい）失敗から学ぶPBL

PBLの学びにおいて、学生は様々な問題に直面し、時に「失敗」を経験しています。そのような経験の中で、チーム･個人として、何を考え、どのような学びを得たのか、同志社大学全学共通教養教育科目「プロジェクト科目」での活動を振り返ってもらいました。

「プロジェクト科目」履修生の声



2014年度プロジェクト科目
「同大生"GLOCAL"プロジェクト
～国際協力と地域社会貢献」
【今出川校地開講科目】

文学部
英文学科 3年次生
石井 裕子 さん

「成功への種まき」

「失敗」と聞くと、どんなイメージを思い浮かべるでしょうか?「してはいけないもの」「避けるべきもの」「足を引っ張るもの」といったようなマイナスのイメージではないでしょうか?そして、以前の私はそんな「失敗」を誰よりも恐れていました。

プロジェクト科目を初めて履修したのは2年生の時。「なんとなく面白そうだなぁ」という好奇心だけで履修を決意しました。そして初回の授業で上回生に囲まれる中、「リーダーをやりたい!」と言ってしまったあの次の瞬間にはもう「失敗した…」と後悔したのを今でも覚えています。なんの経験もない自分が、リーダーなんて大役をかってでてしまい、本当に務まるのだろうか。いや無理だ。「失敗」をすればチームに迷惑が掛かってしまう。そんなプレッシャーが何週間も続きました。しかし、この自分史上最大の「失敗」は、私に思わぬ学びをもたらしてくれたのです。

一つは、「自分を知る」ということ。自分のできる範囲を自覚して、できないことはメンバーに助けてもらう。すべての責任を負った気になるのはもしもの時のリスクが高く、そしてとても傲慢なことに気づいたのです。それと同時に、プロジェクトは「誰か一人が抱えるもの」ではなく、「全員が得意なことを生かしあって作り上げるもの」だという大切なことも身をもって学びました。

また、メンバー同士で考えの行き違いがあり衝突したこともありました。当時は話し合いの時間を作ることと、客観的な第三者を間に挟むことで問題は解決しましたが、もう少し足並みをそろえる必要があったなと反省しました。ところがある時、「衝突は決して悪いことでも、失敗でもないのよ。お互いが問題をスルーせずに受け止めているから衝突するのでしょう?一番の失敗は、どちらかが問題に目をつぶって、手の打ちようのないところになってそれが発覚すること」そんな言葉をかけてもらい、目からうろこが落ちました。自分が「失敗」だと思っていたことはすべて、成功へのステップに過ぎなかったのです。

「本当の失敗は、挑戦することを諦めたとき」たったそれだけ。プロジェクト科目を通してそんな大切なことを学びました。「失敗（もどき）」は「避けるべきもの」でも「足を引っ張るもの」でもないのです。だって挑戦に失敗はつきものですから。そして学生の間は失敗をしてもいい時間なのです。失敗を重ねた遠回りが、実は成功への一番の近道なのかもしれません。

2014年度プロジェクト科目
「京都伏見大学プロジェクト
～「学び」で観光の質向上を～」
【今出川校地開講科目】

法学部
政治学科 4年次生
田中 雅巳 さん

「向き合って得られる失敗の価値」

本科目のテーマは、京都市南部伏見地域の魅力を新たな視点で探り、地域のさらなる活性化へとつなげることでした。寺社仏閣や酒処で有名な伏見ですが、私達履修生16名は、住民の暮らしに根付く「生活」そのものを観光資源と捉えた「伏見いぃランド構想」を掲げて1年間の活動を行いました。

私は、伏見のもち米農家であり、もちの販売まで手掛ける中村光宏氏の活動をインターネットで知り、氏が生産者として貫く地域への愛着やもちへのこだわり、哲学に魅了されました。そこで早速、中村氏とは面識すらないまま、その活動を発信するという企画をたてました。しかし、何をどう伝えるかの具体性を欠いたプランを推進したことが原因で、私は科目代表者の判断で企画メンバーから下ろされました。発案者にもかかわらず企画を全うできない自分が悔しく、「何としても中村氏に対する思いを形にしたい」という熱意に溢れましたが、他方一人よがりの企画では何も実現しないという現実も理解していました。そこで、全体テーマと自分の企画では、何が乖離し、何が足りなかったのかを考えました。すると、企画を形にするためには、情熱だけでなく、必要な情報や詳細なプロセスをメンバーに正しく理解してもらうことが何よりも重要であることに気づきました。私はまず、メンバー全員に深く謝罪しました。そして、3名のメンバーに協力を求めて、現地調査で得た情報を基に企画の目的を具体的に示し、実現のための方法や計画、チームとしての協力体制などを詳細に練り上げました。幸い、失敗を経て企画に対する私の姿勢が変わったことや、入念に練り上げた企画内容がメンバーにも評価され、私は復帰が許されました。失った信頼を取り戻した瞬間でした。

その後、プロジェクトチーム全体は、伏見産の竹を使った箒作りや、中村氏の伏見産のもち入りお汁粉の試食会、イラストで紹介するPV作成と活発な活動を展開します。「住民の暮らし」という繊細な領域に立ち入る上で、住民との信頼関係構築は第一に心がけました。伏見の観光振興に対する私たちの真剣な姿勢は中村氏にも認めていただき、さらには行政担当者を通して、氏が志す農業の記事が伏見区役所のHPに掲載されることになりました。

私はこの失敗経験から、何事も誠意を持って取り組む姿勢が、信頼を得る第一歩だと学びました。その経験は社会でも活かされると信じています。貴重な経験を与えてくださった関係者の皆様に心から御礼申し上げます。

「プロジェクト科目」卒業生からのメッセージ

細尾 皓平 さん

【プロフィール】
2012年同志社大学経済学部経済学科卒業。
銀行勤務を経て、元禄年間より織物業を営む株式会社細尾に入社。
日本が誇る着物や帯をはじめ、西陣織による革新的なファブリックを世界に発信している。
<履修科目>
2009年度「スポーツイベント開催!学生と地域の連携によるスポーツクラブ」
2010年度「京都の伝統織物の情報発信プロジェクト」
2011年度「大学発!スポーツプロモーション　～豊かな社会作りを目指して～」

私がプロジェクト科目を受講している間は、「PBL」の意味もわからずに、定めた目標に向かって「必ず成功させたい!」その一心で行動していましたが、今振り返ると沢山の失敗があり、迷惑をかけてばかりでした。イベント集客の見通しの甘さによる大幅定員割れ、広告チラシ7,200枚のミスプリント、成果報告書提出期限遅れ等々。当時、温かく見守って下さり、時に厳しく注意して下さった関係者の方々には本当に感謝しています。

失敗体験も成功体験も自分の中で一つ一つ噛み砕いて経験値として蓄積すること、これが人間としての成長の差になる。プロジェクト科目では失敗体験の機会、成功体験の機会、そしてその体験を省察する時間が十分に与えられます。そうして人間的に成長できること、これがPBLの醍醐味だと思います。

私はプロジェクト科目を通して、課題解決に挑むことが楽しいと思えるようになりました。チームで向き合うともっと楽しい。楽しむコツは傍観者にならず、周りを巻き込みながら、どんどん主体的に行動することです。失敗を恐れ挑戦することを諦めることが一番いけないことです。失敗を恐れ、失敗しないよう全力で準備をする。準備万端の状態で挑めば、学生の間は失敗しても許される期間です。失敗を糧にする貪欲な学びがあってもよいのだと思います。

私は25歳の時、勤めていた銀行を退職し、子どもの時から興味があった呉服業を営む家業に就きました。「伝統工芸を子ども達の憧れの職業にする」これが私の夢です。この夢がかなうまで私は挑戦し続けます。皆さんもどんどん挑戦し、自分の殻を突き破ってください。

【開催報告】PBL教育フォーラム2015（質のよい）失敗から学ぶPBL－何ができるようになったのか－

11月14日、今出川キャンパス良心館において、同志社大学PBL推進支援センター主催「PBL教育フォーラム2015」を開催しました。本事業は、PBL（Project-Based Learning）の課題や可能性について情報共有する機会として、株式会社SIGELの共催を得て、毎年秋に実施しており、今回は5度目の開催となりました。

それぞれにPBLを実践している九州工業大学、広島修道大学、同志社大学の教員と学生にご登壇いただき、失敗と思考の繰り返しの中で得るPBLの学びの経験から学生達は何を得て、何ができるようになったのか、というテーマのもと、議論を行いました。

第1部では、各大学の教員からPBLの取組紹介と学生による具体的な事例報告がなされました。プロジェクト活動を行う中での失敗経験やそこから得た学びなど、各々の感想や考えを交えて語られました。

第2部では、山田和人PBL推進支援センター長のコーディネートのもと、第1部の報告を踏まえつつ「（質のよい）失敗から学ぶPBL」というテーマについて全体ワークショップを行いました。4～5名ずつの各テーブルに、第1部で発表した各大学の学生1名がファシリテーターとして加わり、意見交換が行われました。参加者から出された多様な意見をファシリテーター役の学生が取りまとめ、さらに全テーブルの意見を彼ら自身で精査し、代表4名を選出してパネルディスカッション形式で議論を重ねていきました。

次々と展開する議論に柔軟に対応する学生の姿に、PBLが個性を育む多様な学びであることを改めて実感させられる機会となったように感じます。

また、教職員にとっては、学生のステップアップのためには失敗ができる学びの環境･条件を整備する必要がある、という課題を見出すこともできました。

当日は関係者を含め約80名の参加があり、ワークショップでの議論や登壇した学生への質疑応答も活発に行われました。

山田センター長のつぶやき

同志社大学PBL推進支援センターの山田和人センター長によるコーナーです。

懸命に取り組んだ結果の「失敗」はきっと次につながる。中途半端な「失態」とは違う。失態からは何も学べない。だが、全力を尽くした結果としての失敗は貴重な経験として蓄積される。そんな失敗なら恐れずに受け止められる。チームで一つのことに取り組めば、客観的に「失敗」を分析できるようになる。

～山田和人センター長 Twitterより抜粋～

プロジェクト科目とは?

2006年から始まった「プロジェクト科目」は、教員が一方的に知識を伝授する講義スタイルとは異なり、履修生自身が構想・計画をし、ディスカッションを重ね、行動していく実践型スタイルの授業です。全学共通教養教育科目であり、学部・学年の垣根を越えてチームとして共に活動し、企業や地域の方々から提案されたテーマのもとに、プロジェクトを推進していきます。

2015年度プロジェクト科目 秋学期関連事業開催報告

◆2015年12月18日(金)　秋学期プロジェクト・リテラシー講習会

今年度2回目となる本講習会は、第1回目と同様に、パワープレイス株式会社濱村道治氏を講師に迎え、「伝えるちから ～ポスターセッション」と題して開催しました。
今回は、ポスター作成の基礎に加え、聴衆者の存在を意識した効果的なセッションの方法を学びました。一方的に話すだけの"プレゼンテーション"と聴衆者との対話で成り立つ"セッション"の違いを認識し、発表者と聴衆者が互いに心地よく、有益だと感じられるセッションを目的として構成されました。
春学期成果報告会での履修生の反省点を踏まえたポスターのリメイクと3パターンのデモンストレーションを見たり、グループに分かれて実践演習をすることで、参加した学生からも「気付きが多く参考になった」「新たな刺激や発見があった」との声が聞かれました。対話を通じて相手に考えを伝えるセッションの難しさを実感しているようでした。

◆2016年1月13日(水)　秋学期学生懇談会
◆2016年1月23日(土)　秋学期科目担当者・代表者懇談会

学生懇談会では各プロジェクト科目の履修生代表が一同に会し、自身のプロジェクトの秋学期の活動について振り返りを行いました。まず、春学期に開催された懇談会の際と比較して、評価できる点と反省点をそれぞれ述べ、意見交換を行いました。各科目の状況や課題は様々であっても、半年～1年間プロジェクトの活動を続けてきた学生たちの語る言葉からは、状況に応じて考え続けるタフな思考力が養われたように思われました。
また、担当者・代表者懇談会では、初めにプロジェクト科目検討部会部会長・山田和人教授から授業アンケートで抽出された意見についての回答説明がありました。その後、各担当者・代表者から今年度の授業運営について報告や感想が述べられ、学生主体の授業運営を行うことの難しさや課題について意見交換がなされました。

◆2016年1月15日(金)　第3回SA/TA協議会

科目担当者・科目代表者・履修生のそれぞれとは違う視点で授業活動を俯瞰的に捉えることができるSA(ステューデント・アシスタント)、TA(ティーチング・アシスタント)の立場から各プロジェクトの活動を振り返り、科目の課題を述べ、意見交換が行われました。
目標・課題設定の時期や方法、その修正のタイミング等に難しさを感じたという感想からは、SA/TAの立場ならではの客観的な視野が伺えました。科目担当者や履修生、それぞれの意識の違いや関係性についての反省点や課題もあがりました。学生主体でプロジェクトが運営されるためにSA/TAができることは何だろうか、という問いのもと、活発な議論が交わされました。

◆2016年1月17日(日)　秋学期成果報告会

今出川校地良心館ラーニング・コモンズにて、秋学期成果報告会を開催し、春学期・秋学期連結科目13クラス、秋学期科目2クラスの履修生が、活動の成果をまとめたポスターをもとに最終報告を行いました。当日は、京都のみならず他府県からも大学関係者や一般の方など、約160名の参加があり、会場では履修生との活発なセッションが繰り広げられていました。
どのクラスも、事前に行われたプロジェクト・リテラシー講習会で学んだ"聴衆を意識したセッション"を実践しており、自分たちの活動内容や思いを効果的に伝えて聴衆の共感を得るような報告がなされていました。
ポスターセッション終了後は、学内外の審査員より講評をいただき、最優秀賞、優秀賞、特別賞の表彰を行いました。ポスターの質やセッション、活動に取り組む姿勢などに関しては高く評価された一方で、「取り組みの内容についてはクラスごとの差が顕著に出た」との厳しい声も聞かれました。
報告会の結果は、15クラス中7クラスが受賞するという、これまでにない接戦となりましたが、終了後の学生たちの顔は達成感に満ちた晴れ晴れとしたものでした。

- **最優秀賞:東洋医学で京田辺を健康にするプロジェクト**
  〈京田辺校地開講、春・秋学期連結科目〉
  京都の伝統織物をつなぐ～織物文化ビジネスプロジェクト～
  〈今出川校地開講、春・秋学期連結科目〉
  京都が培ってきた文化産業の素材・技術のリデザインと発信
  〈今出川校地開講、春・秋学期連結科目〉
- **優 秀 賞:ラジオで発信ー若者と高齢者の音楽イベント制作**
  〈今出川校地開講、春・秋学期連結科目〉
- **特 別 賞:LOHASタウン実現プロジェクト**
  〈京田辺校地開講、春・秋学期連結科目〉
  空き店舗を活用した地域活性化Ⅱ　ー風が起こすムーブメントー
  〈京田辺校地開講、春・秋学期連結科目〉
  同大生"GLOCAL"プロジェクト　～国際協力と地域社会貢献
  〈今出川校地開講、秋学期開講科目〉

Project Based-Learning

【問合せ先】
同志社大学PBL推進支援センター
〒602-8580
京都市上京区今出川通烏丸東入　今出川校地教務課内
Tel: 075-251-4630　Fax: 075-251-3064
E-mail: ji-pbl@mail.doshisha.ac.jp

【ホームページ】
PBL推進支援センター　http://ppsc.doshisha.ac.jp/
同志社大学プロジェクト科目　http://pbs.doshisha.ac.jp/
同志社大学　http://www.doshisha.ac.jp/

発行:2016年3月